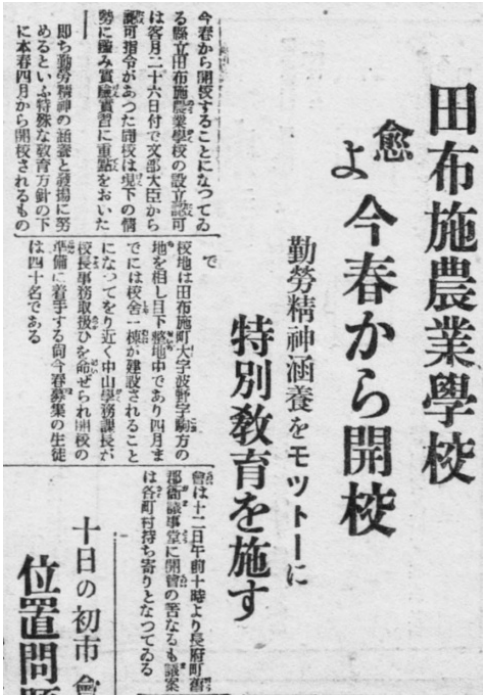
県立農業学校の新設

昭和に入っても県内の実業学校は数少なく、農業学校についても小郡と日置の2か所にあるのみであった。昭和8（1933）年、熊毛郡や玖珂郡、豊浦郡で農業学校設置運動がおこった。時を同じくして、県立水産学校を下関に建設する計画も持ち上がり、県は教育調査会を設け諮問した。これに対し、教育調査会は水産学校1校、農業学校2校の新設を答申した。

農業学校は県下の位置的なバランスや交通などを考慮して、周防部は熊毛郡の田布施町、長門部は厚狭郡に新設する案が挙がった。しかし県の財政難のため、設立にかかる経費は、地元の寄附に依らざるを得ない状況であった。厚狭の方は厚狭・小野田での候補地争いのため郡内の協調が得られず、農業学校の設置はかなわなかった。

一方、熊毛の方は、県立学校がないこともあり、田布施町を中心に県立農業学校の設立に向けて意欲的に活動した。地元負担金10万円余を用意し、県に農業学校の設置を陳情した結果、田布施に県立の農業学校が新設されることが決まった。


田布施農業學校愈よ今春から開校
勤勞精神涵養をモットーに
特別教育を施す

今春から開校することになつてゐる縣立田布施農業學校の設立認可は客月二十六日付で文部大臣から認可指令があつた開校は現下の情勢に鑑み實驗實習に重點をおいた即ち勤勞精神の涵養と發揚に努めるといふ特殊な教育方針の下に本春四月から開校されるもので

校地は田布施町大字波野字駒方の地を相し目下整地中であり四月までには校舎一棟が建設されることになつてをり近く中山學務課長が校長事務取扱ひを命ぜられ開校の準備に着手する向今春募集の生徒は四十名である

會は十二日午前十時より長府町郡役所議事堂に開會の筈なるも議案は各町村持ち寄りとなつてゐる

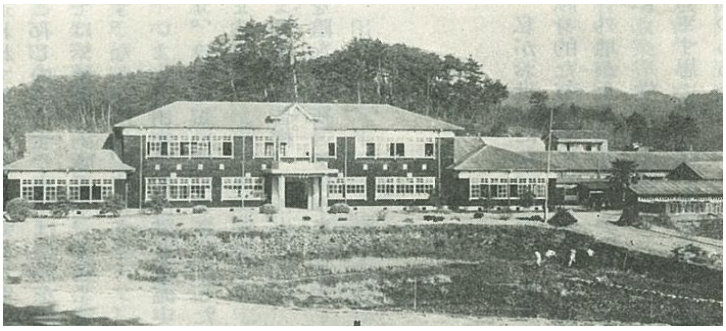
十日の初市 會
位置問題

開校を伝える新聞記事

（「防長新聞」昭和10年1月8日）

田布施農業学校

昭和10年4月、農村振興を使命とし、農村教育の刷新を目指して田布施農業学校が開校した。時勢の影響もあり、教育方針には、「郷土農業の改善と農村文化進展のために第一線に立ちて活躍する国士的農民の養成」とうたわれているように、能力と実行力のある人物を養成することに重点が置かれた。



田布施農業高校 （『田布施農高30年史』より）

校長には、鹿児島県立伊佐農林学校から三好吉重を、教頭には湯田実を招き、地方の農業を振興するため独特の教育を展開した。農業科は授業と実習が一本化した実践農学課程で、教科書は使わず、実習の班は学年の枠を越え編成した。また、家庭学習では全校生の家庭を巡回指導した。